



香曾我部義則先生の今月のカルテ ②9

慢性痛とペインクリニック

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みの治療について分かりやすく説明してくれるこのコラム。第30回のカルテは、腰椎（つい）のずれから痛みが生じる「腰椎（すべ）り症」について考えます。

■プロフィール こうそかべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会専門医、日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

中年女性に多い腰椎（すべ）り症、青年男性に多い腰椎分離すべり症を反らすと悪化—症状は、脊柱管狭窄症と類似

「2、3年前から徐々に成17年7月23号」とも痺れが生じてきます。腰痛の症状が表れ、時折に腰痛や下肢の痛み、痺れ、脱力を感じることがありますが様子をみていく病気が判断できません。最近腰痛だけでなく、左足の痛みと痺れが生じたため病院へ来ました。こんな症状の患者さんが来院され、レントゲン検査をすると腰椎のずれが見られました(図1)。

これを腰椎（すべ）り症とい、変形性腰椎症（平成16年8月28号）、脊柱管狭窄症（同9月25号）、腰椎椎間板ヘルニア（平

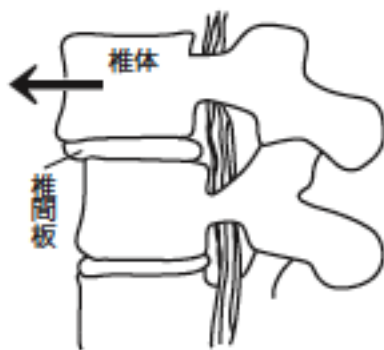


図1 腰椎（すべ）り症 ※腰椎が前方にずれる

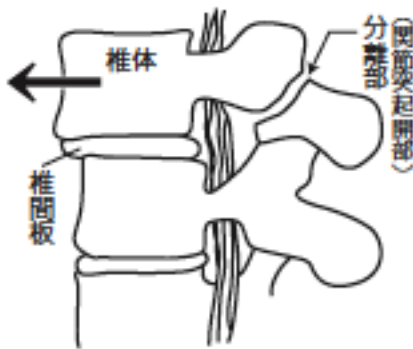


図2 腰椎分離すべり症

すべりに関節突起部に分離を伴う場合には分離すべり症といえます(図2)。分離症は男性に多く青少年期に起こりやすい傾向にあります。診断はレントゲン写真、側面写真で確認できます。また狭窄部位は仙骨硬膜外から造影剤を注入して撮影することやMRIで確認することができ、治療は変形した椎間関節に対する治療と脊柱管狭窄症の治療を行うこととなります。つまり椎間関節痛(主に腰痛が主体)では椎間関節ブロック、下肢痛を伴う場合は仙骨硬膜外ブロック、腰部硬膜外ブロック、または神経根ブロックが有効です。

梶木病院(西花尻)

☎(0863)635550

※このコラムは毎月第4週目に掲載しています